

参 6 現在行っている特筆すべき調査

- 参6.1 楠葉のたまりの魚類調査
- 参6.2 城北ワンドのモニタリング調査
- 参6.3 エコトーンの現地調査
- 参6.4 大山崎及び中津地区におけるモニタリング調査
- 参6.5 橋梁工事における環境配慮の指導
- 参6.6 鵜殿の導水路実験
- 参6.7 鵜殿の高水敷切り下げ実験
- 参6.8 アユ魚道調査
- 参6.9 除草時期の調査
- 参6.10 河道内樹木の伐採に関する調整
- 参6.11 河川生態学術研究

参6.1 楠葉のたまりの魚類調査



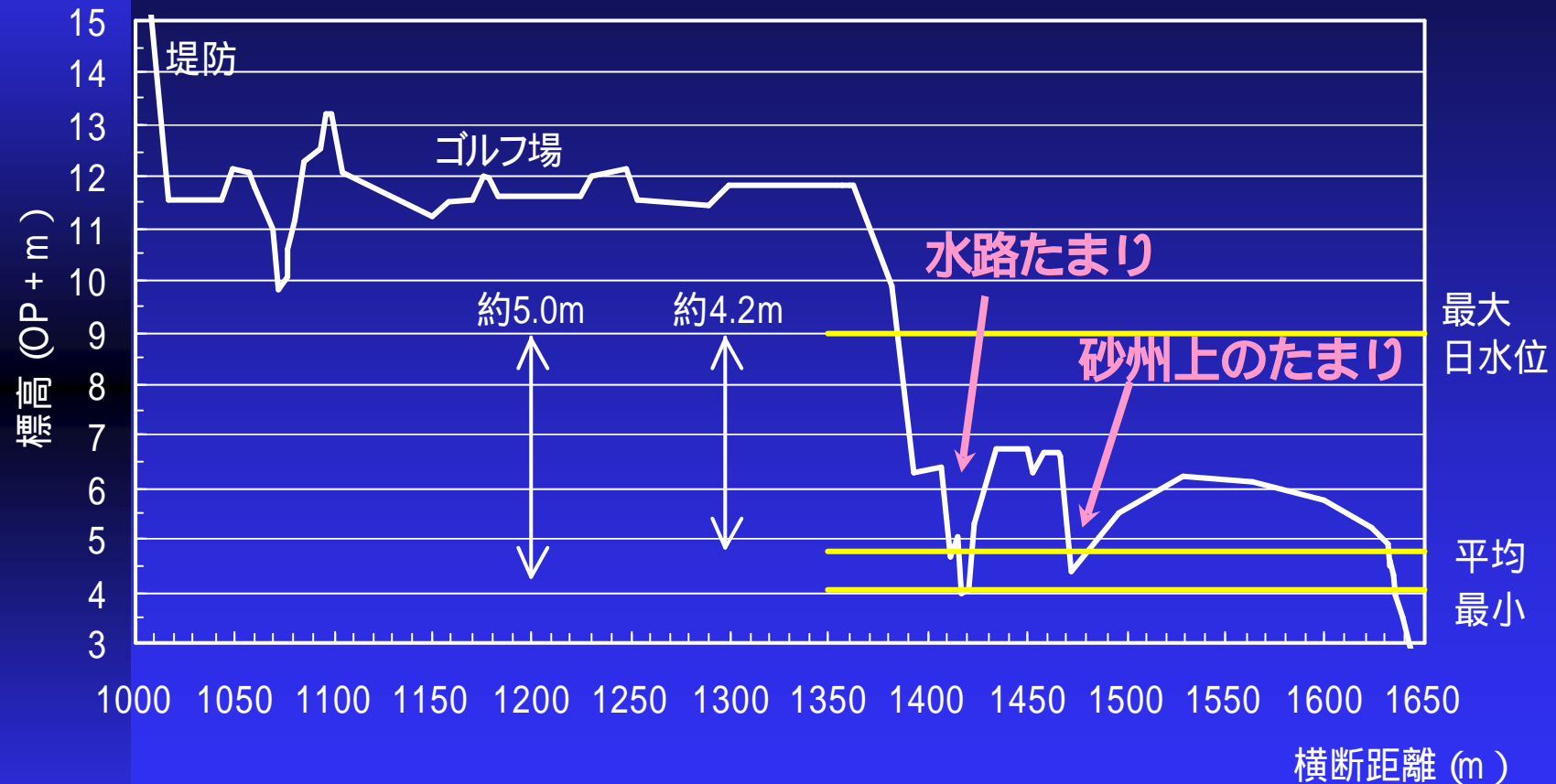
目的 :特徴的な環境である
“たまり”が淀川の生態系で
果たす機能の調査



本川から魚類が進入

参6.1 楠葉のたまりの魚類調査

淀川左岸 (32.8km) 楠葉地区 (1998年度測量)

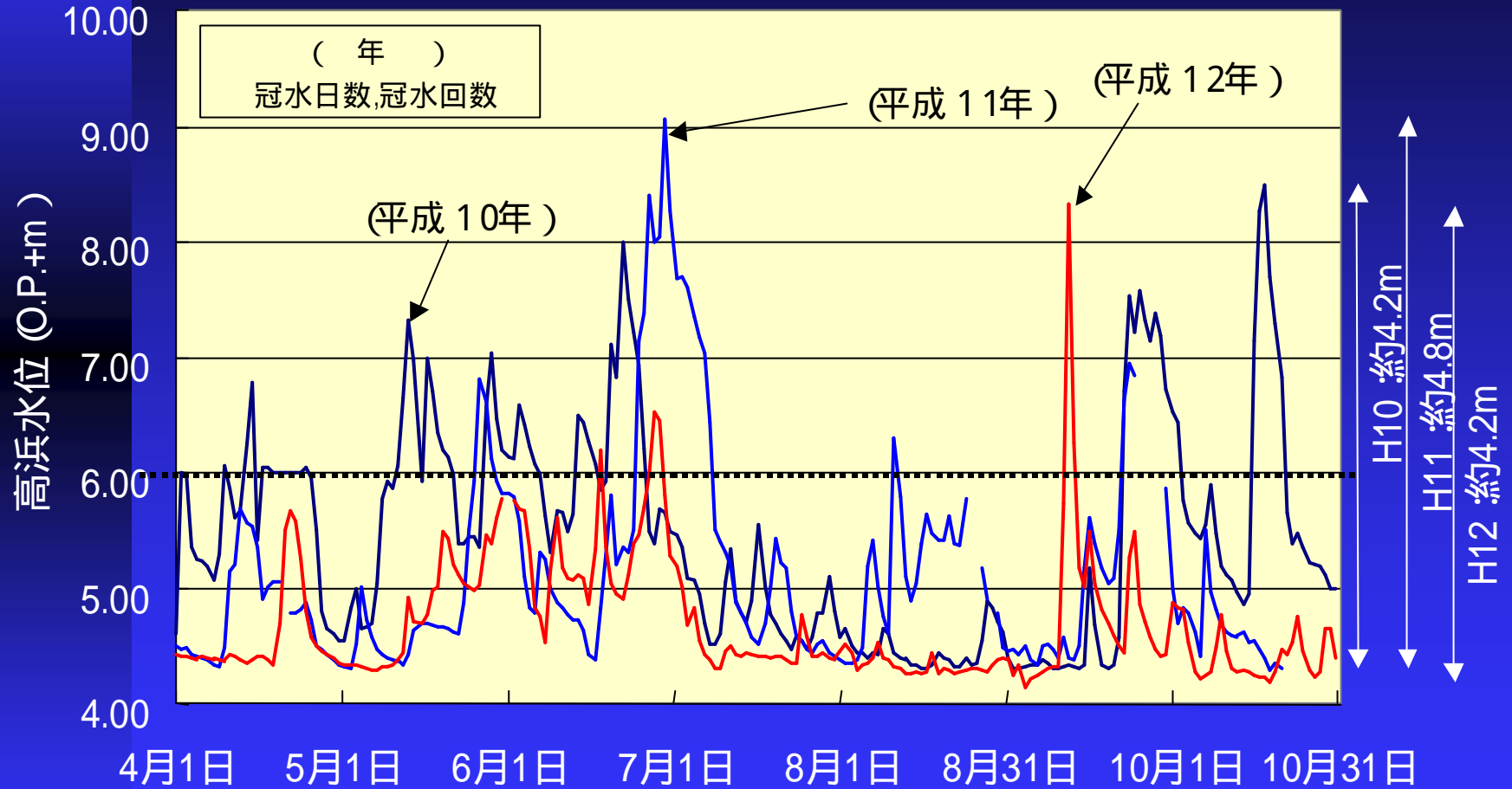


出典 平成12年度 淀川生態環境調査検討業務

水路たまりは、O.P.6mで冠水しますが、
過去10年の平均水位は6mに達していません。

参6.1 楠葉のたまりの魚類調査

高浜地点の日平均水位 4月～10月、3ヶ年



出典:平成12年度 淀川生態環境調査検討業務

参6.1 楠葉のたまりの魚類調査 【タマリでの確認種】

	冠水延べ 日数	冠水 回数	調査 回数	水路域の たまり	砂州上の たまり
H10	59日	10回	49回	27種	28種
H11	21日	4回	26回	23種	20種
H12	5日	3回	10回	5種	26種

出典 :平成12年度 淀川生態環境調査検討業務

*ただし、調査回数等が異なる。

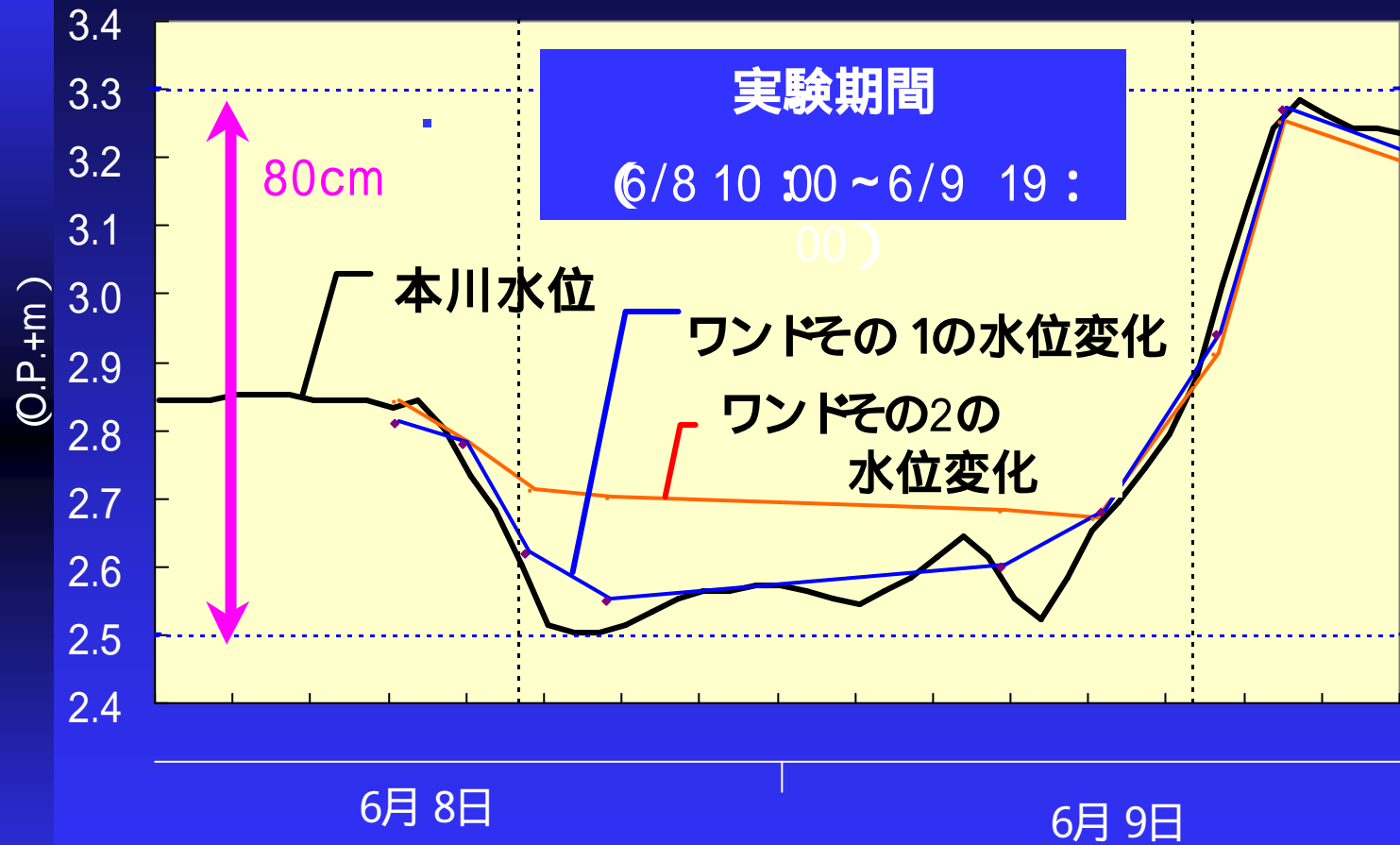
スジシマドジョウ等の産卵を確認しました。

参6.2 城北ワンドのモニタリング調査

目的 淀川の水位変動が城北ワンド群に及ぼす影響の調査

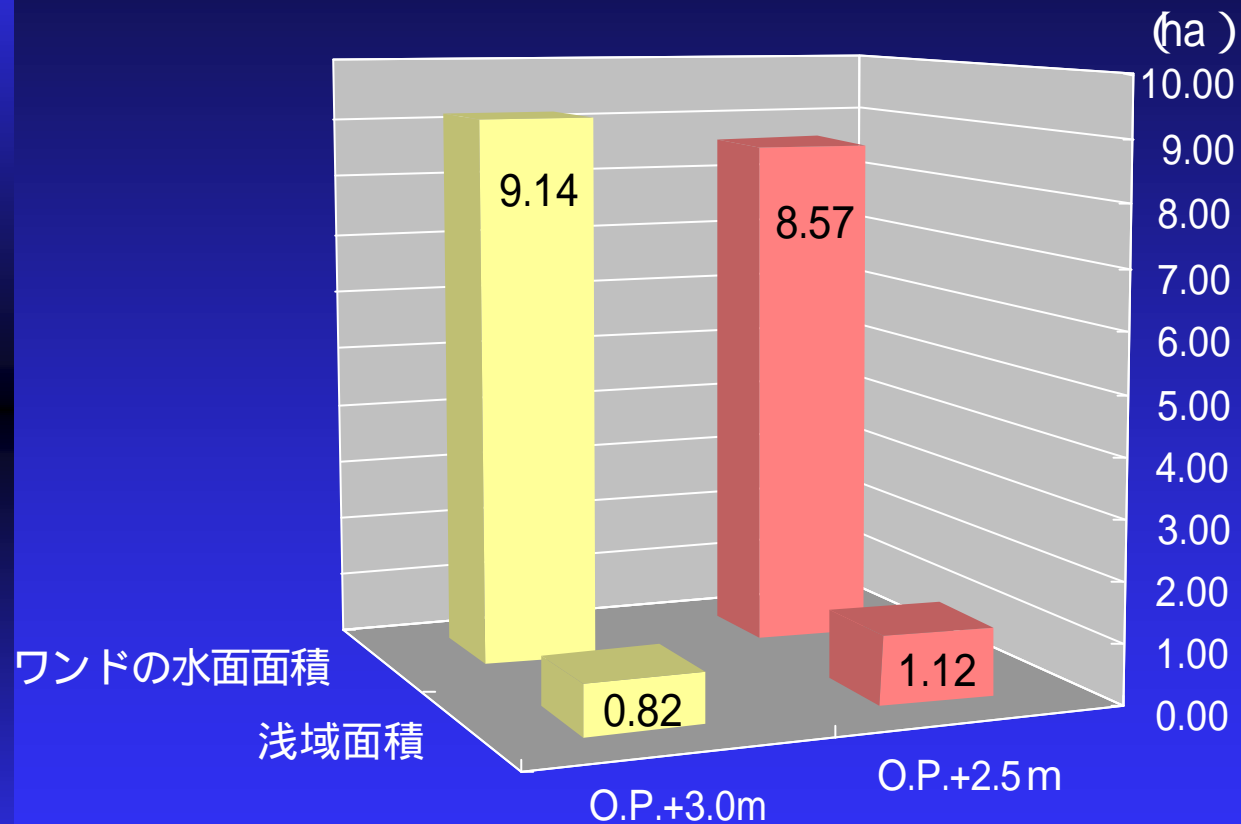


参6.2 城北ワンドのモニタリング調査 【水位変動時の水位変化】



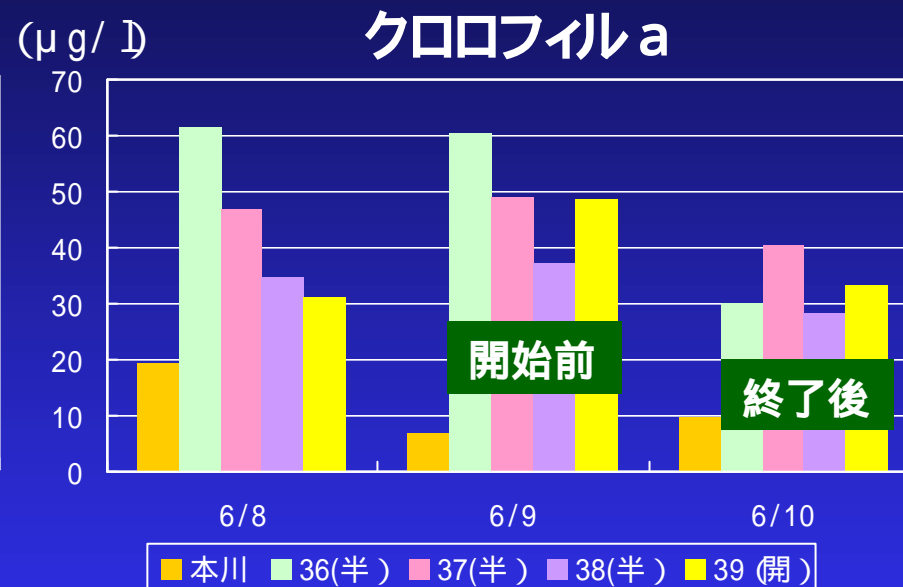
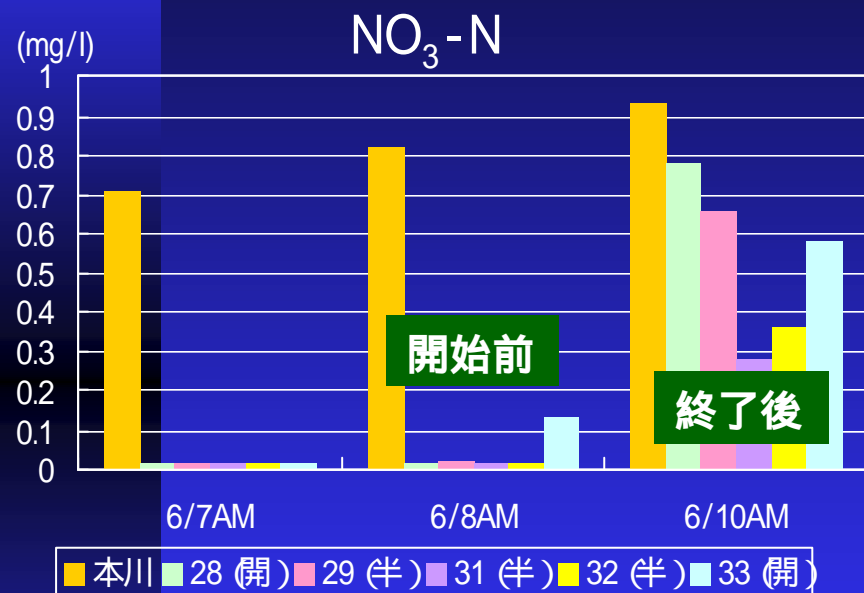
ワンドによって水位変化量は異なりますが、50cm程度の水位変動が見られます。

参6.2 城北ワンドのモニタリング調査 【ワンドと浅域 (50cm以下) の面積変化】



ワンドの総水面面積は減少しましたが、浅域の面積は増加しました。

参6.2 城北ワンドのモニタリング調査 【水交換】

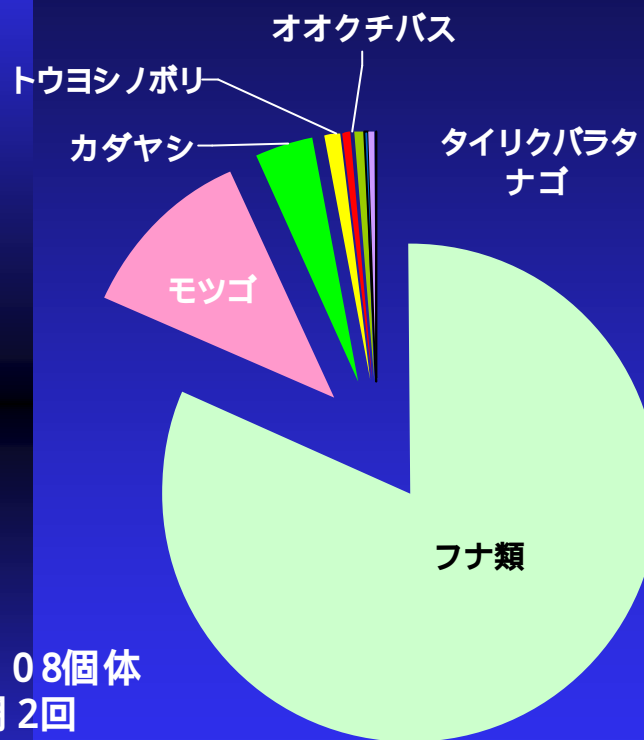


本川の水がワンドに流入し、実験の前後で水質が変化しています。

参6.2 城北ワンドのモニタリング調査 【魚の反応】

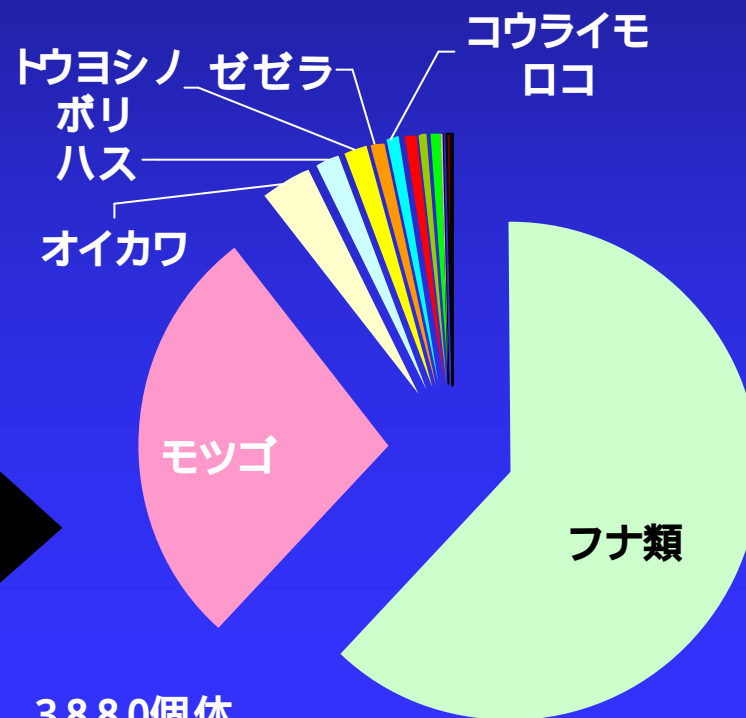
水位上昇に伴う魚類の侵入が確認されました。

《水位低下時》



11種 3108個体
地曳網 2回

《水位上昇時》



18種 3880個体
地曳網 6回

出典：平成12年度淀川生態環境調査検討業務

参6.3 エコトーンの検討

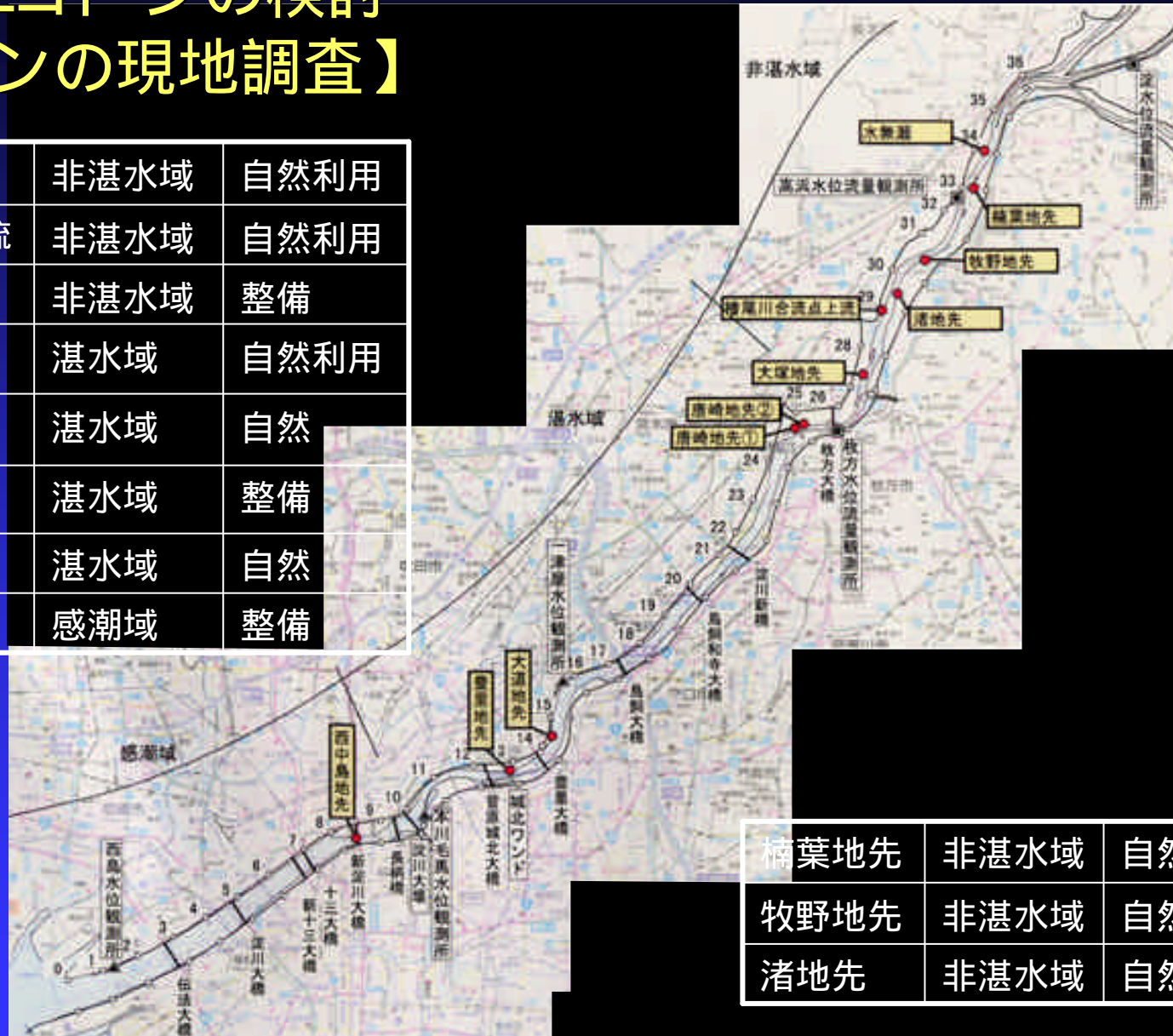


目的 : 淀川にとって望ましいエコトーンを検討する調査

参6.3 エコトンの検討

【エコトンの現地調査】

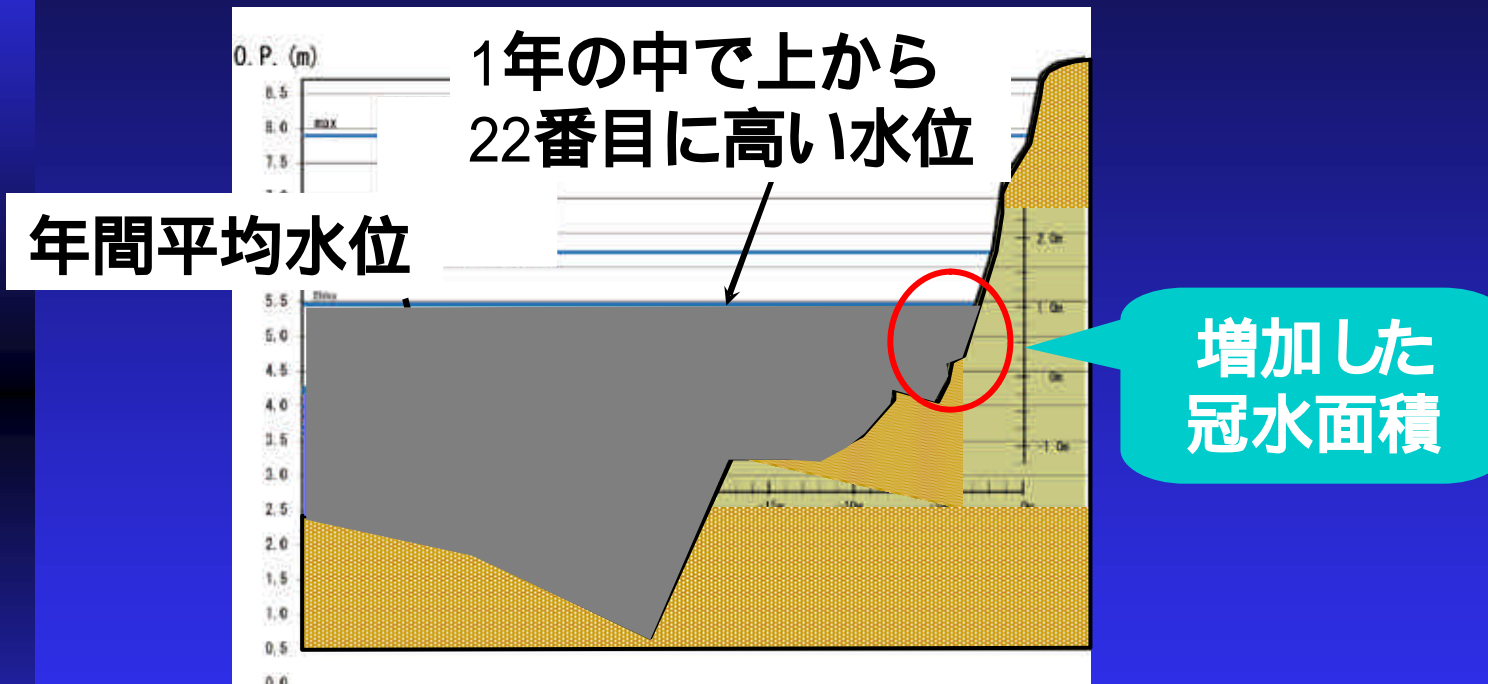
水無瀬	非湛水域	自然利用
檜尾川合流地点上流	非湛水域	自然利用
大塚地区	非湛水域	整備
唐崎地先	湛水域	自然利用
唐崎地先	湛水域	自然
大道地先	湛水域	整備
豊里地区	湛水域	自然
西島地区	感潮域	整備



楠葉地先	非湛水域	自然利用
牧野地先	非湛水域	自然利用
渚地先	非湛水域	自然利用

参6.3 エコトンの検討

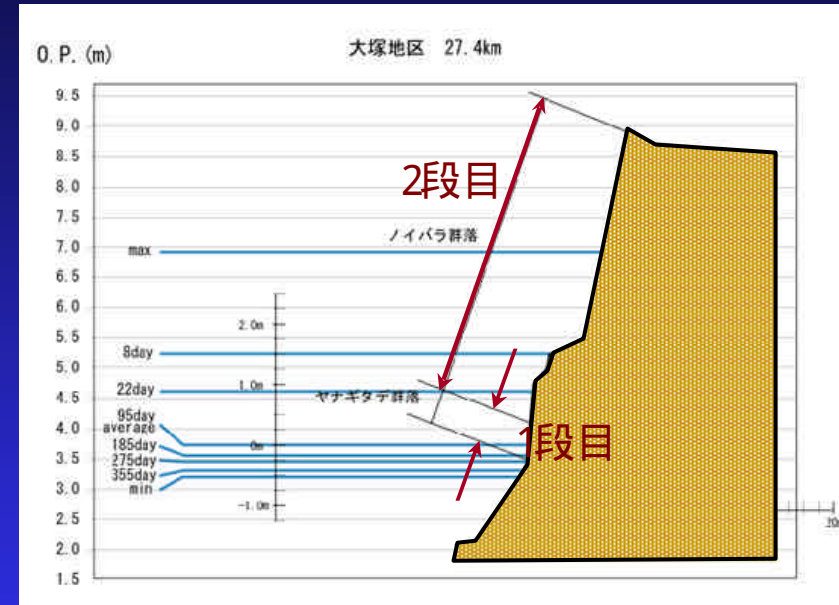
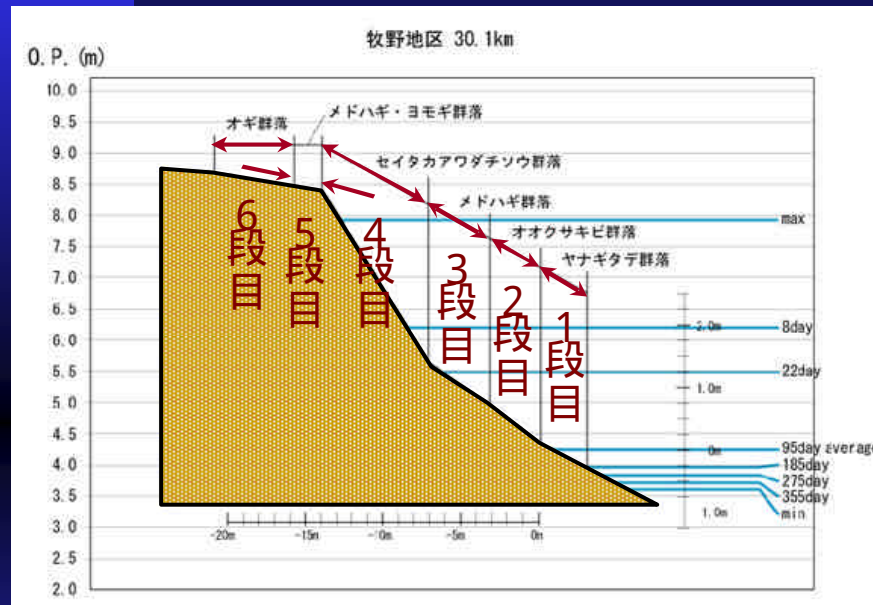
【河岸形状から見たエコトンに望ましくない河岸】



急勾配な河岸の冠水面積の広がり小さい。

参6.3 エコトンの検討

【植生から見たエコトンに望ましくない河岸】



地点	平均的な河岸勾配	植物種数	植生の構成数
左岸30.1km 牧野地区	約4割	20種 以上	6段
右岸27.4km 大塚地区	約1.5割	5種類	2段

急勾配な河岸は植物種数が少ない。

参6.4 大山崎及び中津地区におけるモニタリング調査 【中津地区】

目的 : 工事実施後のヨシの自然回復効果



地下茎にヨシの
回復を確認



1年後

実生のヨシの
生育を確認



移植によるヨシ
の回復を確認



参6.4 大山崎及び中津地区におけるモニタリング調査 【大山崎地区】

目的 : 施工前の表土を用いた
セイタカヨシ群落の回復効果



1年後



セイタカヨシではなく、オギ群落が形成
されました。